たけうまファンド

2022年4月30日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
-3.3%	3.1%	-13.8%	9.7%	-5.5%	1317.9%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率	93.3%
国内株式	51.6%
海外株式	41.7%
現金（円・ドル）	6.7%

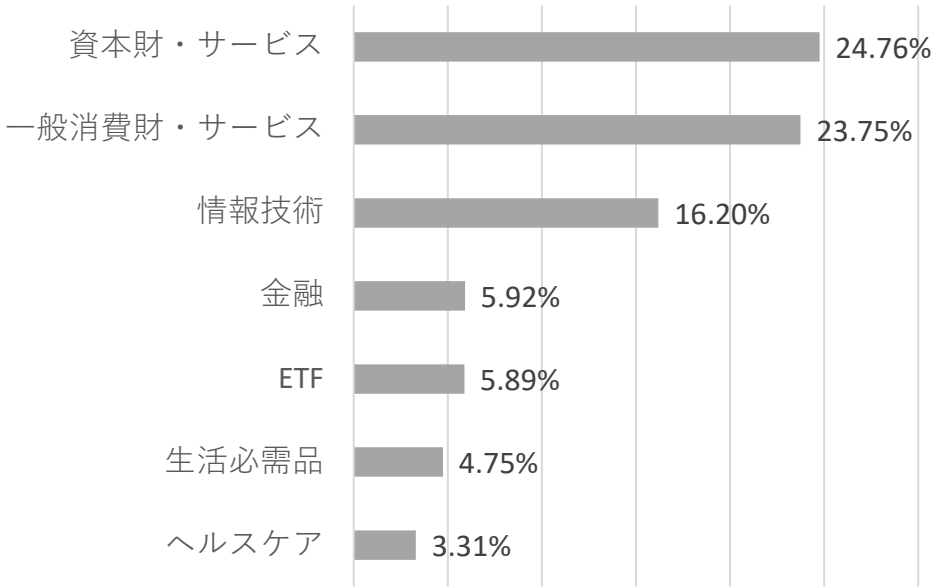
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年4月30日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	18.14% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	ServiceNow, Inc.（NOW）	10.49% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
3	シンメンテHD（6086）	7.11% 一般消費財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
4	ドラフト（5070）	7.09% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
5	オカダアイヨン（6294）	6.97% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
6	MSCI Inc.（MSCI）	5.92% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
7	エネルギー・セレクト・セクターSPDRファンド（XLE）	5.89% ETF	S&P500指数におけるエネルギー・セクターに連動する投資成果を追求するETF
8	CrowdStrike Holdings, Inc.（CRWD）	5.70% 情報技術	クラウドからスタートしたエンドポイントセキュリティ企業。顧客のクロスセル進み高い営業効率。
9	Tapestry, Inc.（TPR）	5.61% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
10	The Procter & Gamble Company（PG）	4.75% 生活必需品	パンパース等超有名ブランド多数。店舗棚を確保できる強力なブランドだけ残す戦略で更に強くなった。

※上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年4月30日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

米国マーケットのアノマリーとして「税還付のある4月のマーケットは強い」というものがあるそうですが、ハイテク株が多いナスダックはリーマンショック以降での記録的な弱い展開。その他の米株指数、日本株も全体的に弱い一か月となり、当ファンドもマイナスという不甲斐ない結果に終わってしまいました。

当ファンドの一か月を振り返るとよく覚えていません（笑）。ポジション構築が終わってしまうと本当に関心が薄くなってダメですね…。思い出しながら振り返ると、月初から20日くらいまでは一進一退ながら全体としてはジリ上げ方向で年初比でプラス圏に浮上するところまでいきました。きっかけはなんだったか、おそらく0.75％の利上げの折り込みが開始されたことだったかと思いますが、下旬から米株中心に急速に崩れだして年初来安値を更新する銘柄が多数続出してそのまま月末を迎えた形です。これは集計時に気付いたのですが外食やレジャー中心の優待口座は好調だったようですね。

取引としては今回の本決算でも今後の期待度が高まらなかったあさひを削減し優待ポートフォリオに移管、月末に穀物ETFを売却しました。夏までの小麦収穫量は4月いっぱいの作付けで決まるという話で、これ以降夏までの材料は全て「わかっていた」結果となりますし大豆とトウモロコシも値上がり傾向が続くのかなとは思うのですが具体的なイメージも情報もないので売却の判断となりました。あと配当のない商品を長期保有する気もなかったというのもあります。また、今月から当ファンドは現物取引以外の信用取引も可能となったため慣らし運転をはじめております。主に一泊二日での空売りとデイトレを行い多少の収益貢献がありました。

決算シーズンなので組み入れ銘柄でも決算が始まりました。2月本決算のシンメンテは相変わらずの巡航速度予想ですが、このレポートを執筆している大型連休では街の人出も多く足元の顧客の需要増が期待できそうだなというのと同時に元通りの経済を稼働させるにあたっての感染対策も今後ずっとついて回るのだろうなという気持ちをより強くしました。コロナ以降ボラが大きい銘柄になってしまって保有がなかなかしんどい時もありますが継続していく予定です。米国株ではP&Gが王者の風格漂う好決算。さすがのキングオブコンシューマーブランドの塊です。MSCIは株価は下落していますがガイダンスは維持。ESGの成長力は衰える気配はありませんが、インデックスの継続的な収益低下とそれを補うためのマルチアセットの収益力の低下は懸念されますね。アラインテクノロジーはコロナ禍除いて初の全四半期比減収でドボン。保有ウェイトも低下して上位10位圏外へ。もう1年間下落トレンドのクリアライナーの出荷数が反転しないと厳しいと思うのでしばらくは様子見です。サービスナウも事業の強さを再認識させる好決算。大口顧客の獲得ペースも落ちず、cRPOもペース維持。軒並みSaaSがコロナブーストの剥落に苦しむ中コロナ禍ピーク時のペースを維持しているというだけで驚異的だというのがわかるもの。アラインテクノロジーもサービスナウも日本で伸びているという記載があったので今年は日本の消費者に期待することになりそうです。他の日本株については例年4月末に発表しているベネフィット・ワンの本決算が大型連休以降になっていたので日本株の決算本格化は5月となりそうです。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります

たけうまファンド

2022年4月30日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

現在当ファンドの主要組み入れ銘柄数は12まで減少しています。脳筋ポジポジ病フルインベストメント症候群に苦しんできた当ファンドとしては驚異的な少なさにまで減少しています。そのおかげで保有株の決算も減少し楽をしています。本来的には生まれた余裕を活かしてこの決算期もしっかりと分析を行い新規銘柄の発掘を行うべきところですが、昨年中間決算発表時に大失敗しているので今回は半歩引いたスタンスでいるつもりです。見るには見るが見る程度にとどめると言いますか、そんな感じをイメージしています。詳しく見て魅力を感じてしまうとついつい欲しくなってしまうので。

信用取引が解禁されてもまた以前のような維持率100％生活のようなことにはならず純粋に武器がひとつ増えただけの形でやれているので、この状況を維持・改善しながら今後もファンド純資産の安定的な成長を第一に考えた運用を行ってまいります。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります